新型コロナウイルスクラスターを経験して

社会福祉法人　恵愛会　グループホームめぐみ

川崎　弘

施設の概要

・開設年月日	平成14年5月1日
・２ユニット	18名
（1F・2F）	
・平均年齢	84歳
・平均介護度	3.2
・平均日常生活自立度	B2　Ⅲa

＊令和5年3月1日現在

関連事業所

- 特別養護老人ホーム
- ケアハウス都城
- サービス付き高齢者住宅　さくらハウス横市
- 恵寿苑デイサービスセンター
- 訪問介護事業所
- 居宅介護支援事業所
- 食の自立支援事業所
- 訪問入浴事業所
- 高齢者優良賃貸住宅ラポールのぞみ
- 小規模多機能ホーム　一休庵いわよし
- 小規模多機能ホーム　一休庵きりしま
- 都城市祝吉・沖水地区地域包括支援センター

グループホームめぐみの感染予防対策

・職員への行動自粛要請
・家族も含めた県外出入り、イベント出席申告（出勤の自粛）
・毎日出勤前の検温報告、施設入室前に検温
・休憩、食事は複数にならないよう、時間差、場所を分ける。
・面会の禁止（基本）、外部業者とのやり取りは施設外で行う

↓

令和4年8月第7波感染急拡大の時期更なる感染予防対策を行っていたがクラスターが発生してしまった。

経緯

令和4年8月22日

・入居者A様：37.6度の発熱と咳症状あり、協力医療機関受診し抗原検査陽性。主治医より保健所へ報告し入院調整を行うとのことで帰苑する。

・A様居室にて隔離対応し、1F、2F全職員・利用者の抗原検査実施し結果は全員陰性であった。

・保健所よりA様の状態確認の聞き取り後、入院先の調整を行うので再度連絡するとの事

・保健所より入院調整を行っているが、受入先がない、今夜は施設で看てください。明日再度調整するが、現状感染者が非常に多く難しいかもしれないとの事であった。協力医療機関へ報告、相談し今後の対応について依頼する

・県・市、入居者全家族へ現状を報告する。

・この時点よりゾーニング開始する（利用者は居室対応、職員はPPE対応とする）

経緯②

8月23日（クラスターとなる）

・職員1名・・熱発、咳症状あり（抗原検査陽性）

・利用者3名・・熱発（抗原検査陽性）

・保健所へ報告、相談⇒入院は困難との事、施設での対応をお願いします

・協力医ドクター、看護師往診⇒入居者の応じて点滴、酸素投与、内服処方等の処置、指示あり

・夕方利用者1名熱発（抗原検査陽性）

・市より不足物品の支給（ガウン、手袋等）

8月24日

・職員1名、利用者2名の陽性確認

・保健所、行政へ都度報告。陽性者家族へは毎日状態の報告

・協力医毎日往診して下さり、必要な医療処置をしてくださる。

経緯③

8月25日

・職員1名陽性確認

利用者6名・職員4名の感染となる。この後の新規感染者は確認されなかった。感染は1Fのユニットのみであった。

9月5日に収束となる。

感染対策

・ゾーニングを実施（居室エリアをレッドゾーンとしてビニールカーテンで仕切り、PPE対応を徹底した）

・レッドゾーンでのケア終了後は、ガウンや手袋、帽子、マスク等全て処分し消毒しグリーンゾーンに入ってくる（一方通行

・基本、レッドゾーン担当職員とグリーンゾーン担当職員を分けて配置した。感染されていない利用者（3名）はグリーンゾーンである食堂ホールで対応。

・食事は、使い捨ての食器を使用

・毎日3回検温、体調確認を行った。

健康管理

入居者（陽性者）

・第7波の真っただ中で、入院受入先がなく陽性者全員を施設で看ることとなった。

・感染当初は、発熱や倦怠感等で状態悪い入所者が見られたが、協力医が毎日往診に来て下さり、必要な医療処置をしてもらったため、重症者（死亡）もなく全員回復することが出来た。

・毎日、利用者のバイタル、食事摂取状態等を協力医へ報告し情報共有、助言をいただいて対応できた。

・職員の陽性者は全員が自宅療養。定期的に連絡を取り状況確認を行った。全員10日間の療養期間を経て職場復帰できた。

職員の状況

・1Fユニットの職員4名が次々に陽性となったため、残りの職員4名（管理者・看護師、夜勤専従含む）となった。残りの職員もいつ感染してもおかしくない状況の中でのやりくりであった。法人内の他事業所でのクラスターが発生している状況で法人内からの応援も難しかったため、2Fのユニット職員2名を1Fの対応に当たってもらったが、それでもぎりぎりの状況で感染していない職員はほとんど休みも取れない状況での対応にあたった。

感染への恐怖と刻一刻変化する利用者の対応とで休憩時間まともに取れない状況であったがみんなで励ましあい何とか乗り切ることが出来た。次々に職員が職場復帰し全職員がそろった時の喜びは忘れられない。

対応の振り返り

・感染経路は不明であるが、おそらく職員からの感染だと思われる。感染者が出た翌日には複数人に症状が見られクラスターとなった。グループホームという共同生活の場での感染予防の難しさを痛感した。特に認知症の利用者さんは居室内隔離が困難なケースが多く更なる感染拡大へと繋がってしまうため本当に対応に苦慮した。とにかく持ち込まないことが大事

・今回は1Fのみの感染拡大に留められたのが大きかった。早めの隔離、接触の遮断を実施したことが良かった。

・第7波の真っただ中で保健所も医療機関もパンク状態であったが、法人の母体である医療機関の全面的なバックアップ体制もあり重症者、死亡者を出すことなく収束できた。

感染対応の経験からの学び

感染者が出たときは、頭が真っ白になり、何から手を付けたらいいか分からなくなった。次々に感染が拡大していく中、不安で不安で押しつぶされそうになりました。そうした中、保健所や行政職員の方の助言や指導、協力医療機関の協力体制、ご家族からの励ましの言葉が本当にありがたかったです。

本当に大変な期間でほとんど家に帰ることもできない状況でしたが、この期間を通して職員との絆はより深まったように感じます。感染せずに対応に当たった職員、感染して自宅療養を余儀なくされた職員それぞれの立場で励ましあい支援に当たることが出来たと思います。

５類への引き下げとなったコロナウイルスですが、今後も感染の波は完全には収まらないと思います。今回の経験を活かし引き続き入居者様が安心・安全に生活できるよう支援して行きたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。